

科目名	情報×経営による価値創造デザイン		
担当講師	宮川裕之		
分類	必修		
時間数	22.5		
学習形態	オンデマンド／オンラインリアルタイム		
授業の概要	本科目では、経営や組織における価値創造を「情報構造の再設計」として捉え、経営課題を多様な視点から構造的に分析・再構成する方法を学びます。Soft Systems Methodology（SSM）の考え方を応用し、経営の現場で生じる曖昧で複雑な問題状況に対して、「意義を描き、構造を設計する」力を養成します。経営戦略やDX推進を担う社会人が、情報・人・組織を統合的にデザインできることを目指します。		
特色とメリット	・ 経営を“構造”として再定義し、価値創造の仕組みを設計する力を養う。 ・ 問題の解決ではなく「問題の定義」から出発する実践的アプローチを体得する。 ・ SSMを通じて、多様な利害関係者の視点を統合する「対話的デザイン力」を学ぶ。		
学習目標	・ 経営課題を構造的に分析し、価値の再構成を提案できる。 ・ 問題状況を可視化し、多様な立場から見方を整理できる。 ・ 理想的な活動構造（Root Definition）を作成し、再設計の方向性を言語化できる。 ・ 構造思考を応用して経営変革をデザインする発想を養う。		
内容		主題 第1回 経営における“構造的価値”とは 第2回 組織の価値構造を描く 第3回 問題状況を描く（リッチピクチャ） 第4回 多様な視点を整理する 第5回 (CATWOE) 価値創造の再設計	内容概要 DX時代における経営構造と価値創造の関係を理解する 5観点とDIKSを活用して価値の流れを構造化する 現場のモヤモヤを図式化し、構造的課題を可視化する 組織や利害関係者の視点を比較し、問題を再定義する Root Definitionを作成し、経営構造の再設計を提案する
受講の前提条件	「情報システム学入門」修了、または同等の構造思考の理解を有することが望ましい。		
事前学習	配布資料を読み、SSMで用いるリッチピクチャやCATWOEの概念を把握しておく。		
事後学習	自職場を対象にCATWOE分析を行い、価値構造の再設計の方向性をA4 1枚にまとめる。（詳細は授業の中で指示）		
参考文献・オンライン科目	・ ピーター チェックランド、ジム スクールズ、『ソフト・システムズ方法論』、有斐閣、1994、ISBN-13 : 978-4641075733 ・ ISデジタル辞典-重要用語の基礎知識-第二版、情報処理学会 情報システムと社会環境研究会編、https://ipsj-is.jp/isdic/		